

### 【短報】トダセスジゲンゴロウに関する若干の知見

トダセスジゲンゴロウ *Copelatus nakamurai* Gueorguiev, 1970 は、本州の平野部から局所的に知られ(森・北山 2002), その後, 中島ら(2005)によって四国からも生息が確認されたゲンゴロウである。環境省(2006, 2007)のレッドデータブックおよび最新版レッドリストに準絶滅危惧種として掲載されているほか, 本種の生息が確認されている各県では県版のレッドデータブックにも記載がある。一方で, 田島・柳田(2010)に代表されるように, 分布情報, 生態的な知見も蓄積されつつある。

関東地方においては, 埼玉県戸田市(長谷川 1989)のほか, 茨城県取手市(和泉 1991), 栃木県の渡良瀬遊水地(神奈川県立自然博物館 1995), 千葉県利根川河川敷(野村 1995)などから記録されている。埼玉県(2008)によれば, 埼玉県からは江戸川河川敷からも見つかっているが, 具体的なデータをともなう記録は公表されていないようである。

筆者の手もとに埼玉県の江戸川河川敷で採集された標本があるのでデータを示しておく。なお, 江戸川は利根川水系で, 茨城県, 栃木県, 千葉県における既記録地とマクロには同じ地域といえる。



1ex., 埼玉県北葛飾郡庄和町新宿新田(江戸川河川敷), 29. VIII. 1999.

夜間に灯火下に落ちていた未成熟個体を採集した。採集地は現在, 市町村合併にともない春日部市に編入されている。

また, 栃木県の渡良瀬遊水地において, 冬季に越冬個体を確認しているので, 合わせて採集状況を示しておく。

1ex., 栃木県下都賀郡野木町野木, 26. XII. 1998.

湿地のヨシ枯れ堆積中の朽ち木内部より越冬個体を採集した。比較的オープンな環境で, 地表はかなり湿潤であり, その上に増水時に漂着したゴミまじりのヨシ枯れの堆積があって, 堆積から顔を出していた直径 10cm 程度の朽ち木表面を削ったところ, 越冬中の本種が見つかった。朽ち木はヤナギ類と思われ, 全体的に堅牢だったが, 部分的

に穿孔性の甲虫類の坑道痕と思われる軟らかな箇所があり, そこに本種はひそんでいた。本種の越冬状況の観察例としては, 鈴木(2003)による細流付近の土中よりの採集例があるが, 状況によっては朽ち木も越冬場所として利用しているようである。

末筆ながら, 本稿を草するにあたって, 有用な情報をいただいた新井浩二(埼玉県), 田島文忠(埼玉県)の両氏に厚く御礼申し上げる。

### 引用文献

- 和泉敦夫, 1991. 茨城県取手市でトダセスジゲンゴロウを採集. 月刊むし, (250), 23.
- 長谷川道明, 1989. 戸田市の甲虫類. 戸田市動物誌, 213-258.
- 神奈川県立博物館編, 1995. 阿部光典ゲンゴロウ類コレクション標本目録. 神奈川県立博物館自然部門資料目録, (8), 66.
- 環境省, 2006. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—5 昆虫類. 248 pp., 8 pl.
- 環境省, 2007. 報道発表資料 レッドリストの修正について 添付資料 資料2 修正版レッドリスト昆虫類(平成19年10月5日)(<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8886>).
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ. 231. 文一総合出版.
- 中島 拓・湯浅喜久一・梶本泰司・岡崎真也・志水克人・大原賢二, 2005. トダセスジゲンゴロウ *Copelatus nakamurai* の徳島県からの記録. 徳島県立博物館研究報告, (15), 37-41.
- 野村周平, 1995. 千葉県利根川河川敷で採集したゲンゴロウ類. 月刊むし, (298), 26-27.
- 埼玉県, 2008. 埼玉県レッドデータブック 2008 動物編, 352 pp.
- 鈴木知之, 2003. トダセスジゲンゴロウの越冬場所. 月刊むし, (391), 44.
- 田島文忠・柳田紀行, 2010. 利根川中流域における希少種トダセスジゲンゴロウの生息環境と生活史. ホシザキグリーン財団研究報告, (13), 215-226.

(埼玉県川越市 亀澤 洋)

### 【短報】ツヤナガタマムシの寄主植物の記録

ツヤナガタマムシ *Agrilus cupes* Lewis, 1893 は淡青色～緑青色の金属光沢をもつ美しい種で, 本州に局所的に分布している。成虫はミツバウツギ *Staphylea bumalda* (ミツバウツギ科) より得られた記録(秋山・大桃 1997)があるが, 筆者らの経験ではバイカウツギ *Philadelphus coronarius* (ユキノシタ科)の葉上より採集する機会が多い。今回, バイカウツギの枯れ枝より羽化脱出した標本を検視する機会に恵まれたので, ここに報告する。

1♂, 山梨県北杜市比志, 29. IV. 2005, 栗原桂一・材採

集 → 30. V. 2005, 羽化脱出 (栗原桂一保管) ; 1♂, 同所, 17. VI. 2006, 栗原桂一・材採集 → 21. VI. 2006, 羽化脱出 (栗原桂一保管) ; 1♂, 同所, 16. VI. 2007, 栗原桂一・材採集 → 17. VI. 2007, 羽化脱出 (栗原桂一保管) .

なお, 筆者の一人栗原隆は, 同地においてバイカウツギの生葉を加害する成虫の姿を確認しており, バイカウツギが本種の成虫および幼虫の加害植物の一つであることが確認された.

末筆ながら, 貴重な情報を提供頂いた栗原桂一氏に厚くお礼申し上げます.

#### 引用文献

秋山黄洋・大桃定洋, 1997. 日本産タマムシ科チェックリスト. 67 pp, むし社.

(農業環境技術研究所 栗原 隆)  
(石川県ふれあい昆虫館 福富宏和)

#### 【短報】日本におけるツマキナガタマムシの寄主植物および西表島からの記録

ツマキナガタマムシは台湾で得られた個体をともに記載された種で, 日本の八重山諸島に分布する個体群は亜種 (*Agrilus auroapicalis ishigakianus* Tôyama, 1985) として扱われている (秋山・大桃 2000). 成虫はハマセンダン *Euodia meliifolia* (ミカン科) の葉上に見られることがすでに報告されている (栗原 2001) が, 本種がハマセンダンの枯れ枝より羽化脱出したので, 寄主植物の記録としてここに報告する. また, 日本亜種の分布記録としては, 最初に発見された石垣島のほかに西表島からも記録されている (東ら 2002). しかし, 西表島での正確な採集データを欠き引用文献も不明なため, 西表島における採集記録も併せて報告する.

#### [羽化脱出記録]

8 exs., 沖縄県石垣市屋良部林道, 25. X. 2002, 栗原桂一&深石隆司・材採集 → 8-26. V. 2003, 羽化脱出 (栗原桂一保管) .

2♂♂1♀, 沖縄県八重山郡竹富町 (西表島) 古見, 28. III. 2007, 福富宏和・材採集 → 2-3. IV. 2007, 羽化脱出



図1. ツヤナガタマムシ  
*Agrilus capes* Lewis, 1893.

(福富宏和保管) .

西表島で採取された材は, ハマセンダンの林縁に張り出した直径 10cm 程度の新鮮な枯枝で, 東京都国立市に持ち帰り衣装ケースに入れ管理したところ, 翌月に成虫が脱出した.

#### [西表島産の追加記録]

1 ex., 沖縄県八重山郡竹富町 (西表島) 相良川, 29. IV. 2003, 栗原隆採集 (栗原桂一保管) .

18 exs., 沖縄県八重山郡竹富町 (西表島) 大富, 13. IV. 2008, 栗原桂一&栗原春江採集 (栗原桂一保管) .



図2. ツマキナガタマムシ  
*Agrilus auroapicalis ishigakianus* Tôyama, 1985.

西表島において採集された成虫のうち, 大富の個体はすべてハマセンダンの生葉を掬って得られたものである.

末筆ながら, 貴重な情報を提供頂いた栗原桂一・深石隆司両氏に厚くお礼申し上げます.

#### 引用文献

秋山黄洋・大桃定洋, 2000. 世界のタマムシ大図鑑. 341 pp, むし社.

東 清二 (監) 屋富祖昌子・金城政勝・林 正美・小濱継雄・佐々木健志・木村正明・河村 太 (編), 2002. 琉球列島産昆虫目録 増補改訂版. 570 pp, 沖縄生物学会.

栗原桂一, 2001. ツマキナガタマムシをハマセンダンから採集. 月刊むし, (366), 47.

(石川県ふれあい昆虫館 福富宏和)  
(農業環境技術研究所 栗原 隆)

#### 【訂正】

筆者らは甲虫ニュース (168 号) においてアカガネエグリタマムシを徳之島初記録として報告したが (栗原・一柳 2009), 既に稲田・福富 (2007) (甲虫ニュース, (157), 6) により記録されていたことが判明したので, お詫びすると共にここに訂正する. このことをご指摘いただいた九州大学の山本周平氏にお礼申し上げます.

(農業環境技術研究所 栗原 隆)